岡山 OKAYAMA

家族7人 福島から
原発20数キロで診察の医師

福島第一原発の事故を受け、16日から岡山市内に避難している福島県南相馬市の医師、常盤聡さん(44)が21日、国際医療NGO「AMDA(アムダ)」(岡山市)の会見に同席し、原発の「廃炉」を訴えた。

常盤さんは、AMDAの協力で、妻恵子さん(41)と子ども3人、福島県内に住む妻の両親の計7人で岡山に来た。

自宅と経営する診療所は、福島第一原発から20数キロの場所にある。津波の被害はなかったが、地震で診療器具の一部が壊れ、電話が通じず外部との連絡が一切とれなくなった。それでも「津波や地震で負傷者がいるはず」と考え、12日朝から診療所を開け、数十人の患者を診療した。

ところが14日、原発で2度目の水素爆発があった。「もうこれ以上は危険」と判断し、その夜、妻の実家のある県内の別の市に避難した。30キロ圏内の住民対する屋内待避の指示は、その直後のことだった。15日にAMDAの知人から岡山への避難を勧められ、従ったという。

福島県から避難してきた常盤聡さん(左)と恵子さん。福島第一原発から20数キロに診療所がある=岡山市北区

岩手県にいる親族は無事だが、安否不明の友人や、津波で子どもを失った知人もいる。「岩手や宮城は復興に向かっているが、福島は原発があるため全く進まない。原発は、安全な形で廃炉にしてほしい」と訴えている。

感染症流行、薬不足、脱水症状…
AMDAが現状報告

AMDA代表で医師の菅波茂さん(64)が21日、被災地での活動を報告した。

現地では断水が続き、衛生環境が悪化している。避難所では、インフルエンザやノロウイルスなど感染症がはやっているうえ、糖尿病など慢性疾患の薬も足りていない。

被災地で撮影した写真を使いながら、説明する菅波茂医師=岡山市北区

冷たい飲食物が多いため、胃腸を壊しやすい高齢者は飲まず食わずになりがちで、脱水症状が増えているという。

AMDAでは20日現在、岩手で23人、宮城で9人が避難所を回って診療しているほか、避難所マップの作成やトイレ整備、診察室の設営、1500食分の豚汁の炊き出しなどをしている。

3月いっぱいは医療支援が中心だが、4月からは介護支援を強化する。募金は郵便振替(01250・2・40709)、口座名「特定非営利活動法人アムダ」の「東日本大震災」。

(西山良太)